

「日本遺産」の認定について

星降る中部高地の縄文世界

—数千年を遡る黒曜石鉋山と縄文人に会う旅—

○申請者 長野県(茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、長和町、川上村)
山梨県(甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市)

○認定日 平成30年5月24日(平成30年2月申請)

○構成文化財 67件(長野県45件、山梨県22件)・・・内、岡谷市7件

○将来ビジョン

黒曜石から生糸、精密機器等流通するモノは変わっても、世界各地から人を呼び込み、交流を基盤とした地域づくりを進め、「縄文の精神が生きる交流エリア」を目指す。

○協議会を設置して事業を実施

構成団体:県及び各市町村の教育委員会、産業部局、考古関係団体等

○日本遺産魅力発信推進事業

補助金は3年間で合計7,000万円を予定(協議会へ交付)

○市内の構成文化財

海戸遺跡出土品

(顔面把手付深鉢形土器)



(顔面把手)



縄文美人に会う。つり上がった切れ長の目や上向きの鼻、小さくあいた丸い口、深くくびれた胴などの美しさは、5000年の時を経て、さらに私たちを魅了してくれる。

榎垣外遺跡出土品



縄文芸術 美しい女性と対峙し、男性の象徴を意味する蛇を荒々しく描いた縄文人の表現力には圧倒される。

花上寺遺跡出土土偶



高さ4cmの超小型土偶であるが、小さいながらも目、口、鼻、手指などの細部もしっかり表現されていて、とても愛おしく感じられ、縄文芸術に触れることができる。

目切遺跡出土品

(顔面把手付深鉢形土器) (壺を持つ妊婦土偶)



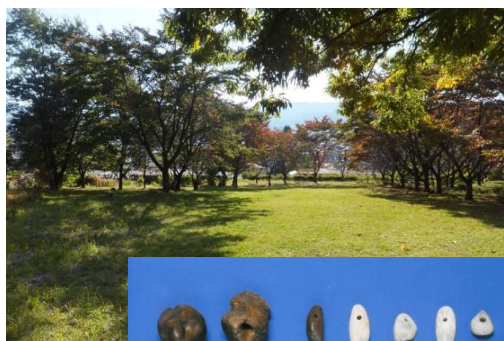
壺を持つ妊婦土偶はとてもおしゃれな縄文女性が可愛らしく表現されている。クールジャパンの造形の代表のひとつ。

清水田遺跡黒曜石原石

麓のムラの大きな黒曜石 重さ 6.5kg もある巨大な黒曜石原石。宝の山から得た黒曜石を打ち抜き、石器をつくっていたムラの姿が想像できる。



梨久保遺跡と出土品



コハク(左)とヒスイの装身具

黒曜石・コハク・ヒスイの分配にかかわったムラ
黒曜石原産地に最も近いムラ。良質な黒曜石を求めて、多くの縄文人が集まり、東西文化交流の拠点の地となった。また、コハク・ヒスイ・黒曜石といったブランド品が集散したことを示す。日本海と太平洋を繋ぐ交流地域であったことを現代人に語りかけてくれる。

広畑遺跡と出土土偶



山の幸を享受した縄文ムラの
景観。出土土偶は古来のお産の姿である座産のような表現がされている。